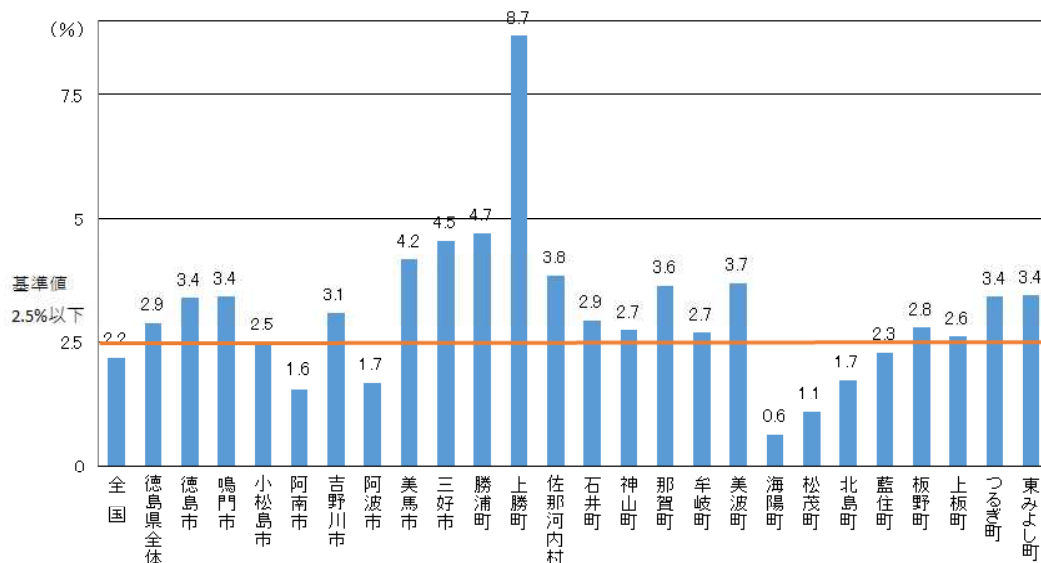


令和3年度子宮頸がん検診の精度管理指標

(1) 要精検率（20～74歳）

がん検診受診者のうち、精検が必要と判定された人（要精検者）の割合であり、検診で精検の対象者が適切に絞られているかを測る指標であることから、基本的には低い方が望ましい指標です。

基準値は2.5%以下とされていますが、有症状者（すでに症状があり、本来がん検診の対象でない人）が多い場合、受診者にがん罹患率の高い年齢層や、はじめて受診する人が多い場合は、要精検率は高くなります。逆に、受診者にがん罹患率の低い年齢層や、定期的に受診している人が多い場合は、要精検率は低くなります。

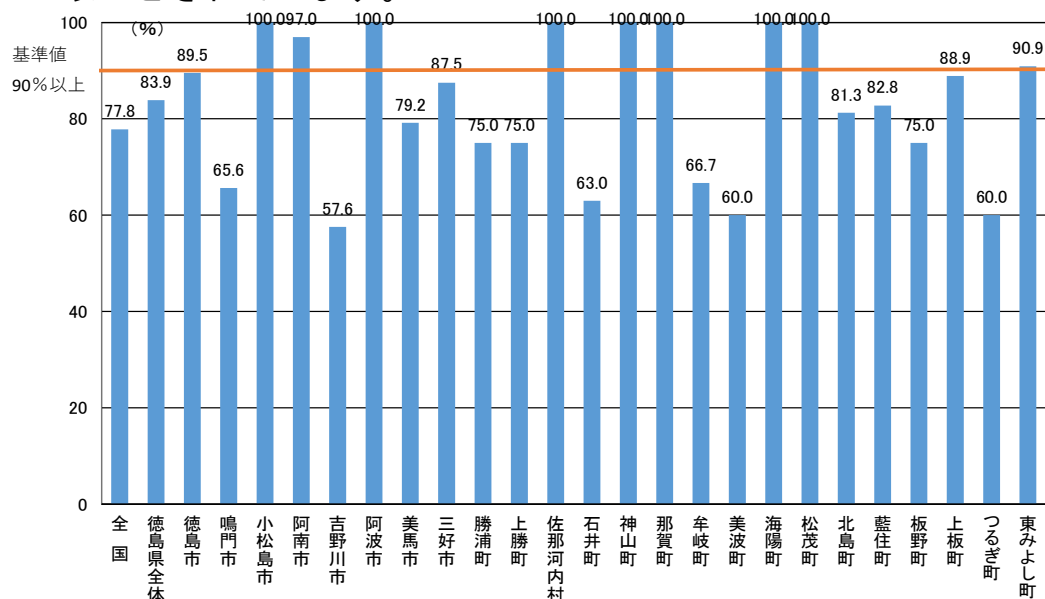


※検診受診者の少ない市町村では、基準値を大きく外れる場合があります。

(2) 精検受診率（20～74歳）

精検が必要と判断された人（要精検者）のうち、精検を受けた人の割合であり、高い方が望ましく、本来は100%を目指すべき指標です。

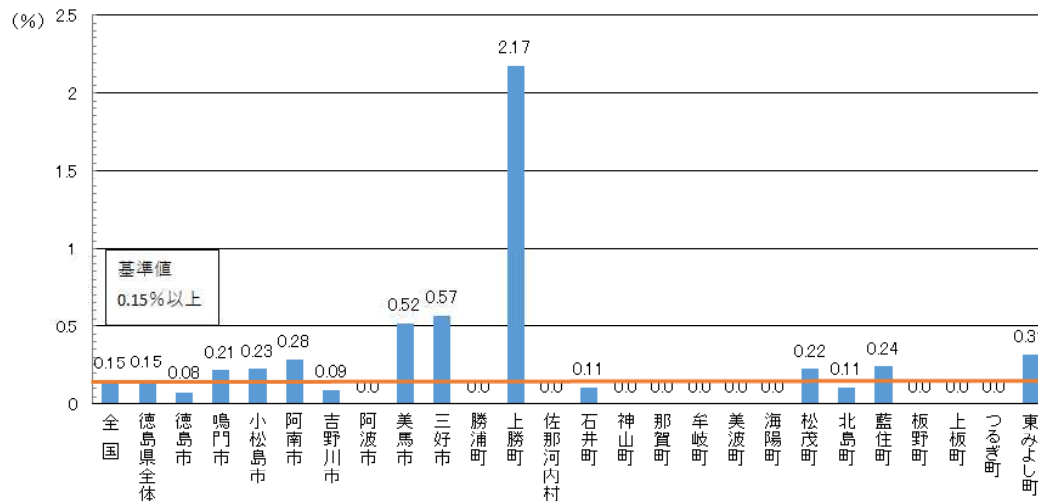
精度評価の最も重要な指標と位置づけられており、基準値は90%以上とされています。



(3) がん発見率（20～74歳）

がん検診受診者のうち、がんが発見された人の割合であり、検診で適切な頻度でがんを発見できたかを測る指標であることから、基本的には高い方が望ましい指標です。

基準値は0.15%以上とされていますが、受診者にがん罹患率の低い年齢層や、定期的に受診している人が多い場合は、がん発見率は低くなります。逆に受診者にがん罹患率の高い年齢層や、はじめて受診する人が多い場合は、発見率は高くなります。また、受診者の中に有症状者（すでに症状があり、本来がん検診の対象でない人）が多い場合、がん発見率は極端に高くなります。



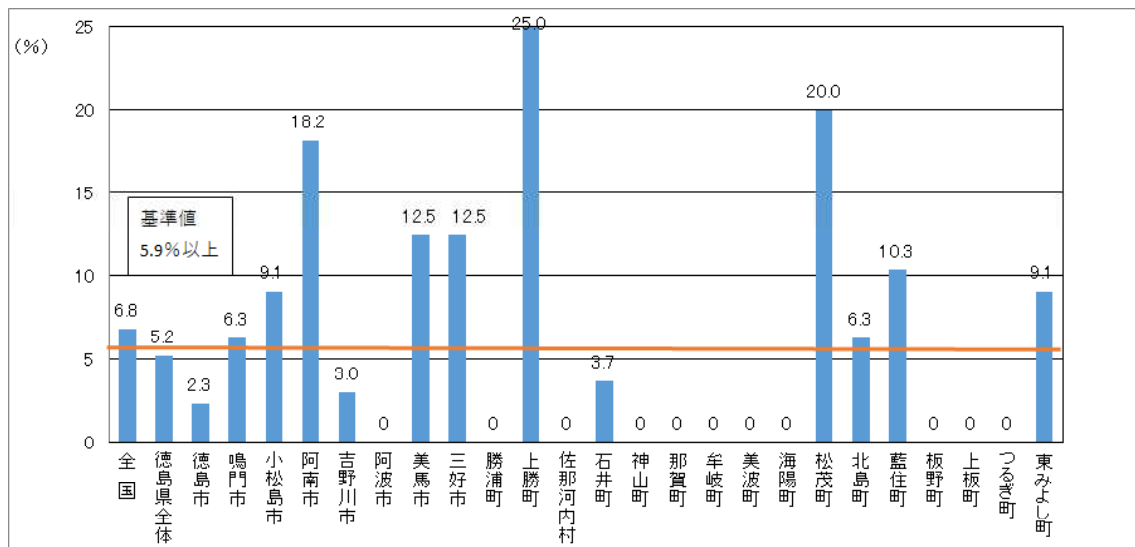
※検診受診者の少ない市町村では、基準値を大きく外れる場合があります。

(4) 陽性反応適中度（20～74歳）

精検が必要と判定された人（要精検者）のうち、がんが発見された人の割合であり、検診で効率よくがんが発見されたか（陽性判定が正しかったか）を測る指標で、基本的には高い方が望ましい指標です。

基準値は5.9%以上とされていますが、受診者にがん罹患率の低い年齢層や、定期的に受診している人が多い場合は、低くなります。

逆に受診者にがん罹患率の高い年齢層や、はじめて受診する人が多い場合は、高くなります。



※検診受診者の少ない市町村では、基準値を大きく外れる場合があります。

令和3年度 子宮頸がん検診精度管理指標(20～74歳)

(単位：％)

No.	市町村	精検受診率	要精検率	がん発見率	陽性反応適中度
1	徳島市	89.6	3.4	0.08	2.3
2	鳴門市	65.6	3.4	0.21	6.3
3	小松島市	100.0	2.5	0.23	9.1
4	阿南市	97.0	1.6	0.28	18.2
5	吉野川市	57.6	3.1	0.09	3.0
6	阿波市	100.0	1.7	0	0
7	美馬市	79.2	4.2	0.52	12.5
8	三好市	87.5	4.5	0.57	12.5
9	勝浦町	75.0	4.7	0	0
10	上勝町	75.0	8.7	2.17	25.0
11	佐那河内村	100.0	3.8	0	0
12	石井町	63.0	2.9	0.11	3.7
13	神山町	100.0	2.7	0	0
14	那賀町	100.0	3.6	0	0
15	牟岐町	66.7	2.7	0	0
16	美波町	60.0	3.7	0	0
17	海陽町	100.0	0.6	0	0
18	松茂町	100.0	1.1	0.22	20.0
19	北島町	81.3	1.7	0.11	6.3
20	藍住町	82.8	2.3	0.24	10.3
21	板野町	75.0	2.8	0	0
22	上板町	88.9	2.6	0	0
23	つるぎ町	60.0	3.4	0	0
24	東みよし町	90.9	3.4	0.31	9.1
／	徳島県	83.5	2.9	0.15	5.2
／	全 国	77.6	2.2	0.15	6.8

<各指標の算出式>

精検受診率＝精検受診者数/要精検者数×100

要精検率＝要精検者数/検診受診者数×100

がん発見率＝がんであった者（子宮頸部浸潤がん、AIS、CIN3）/検診受診者数×100

陽性反応適中度＝がんであった者（子宮頸部浸潤がん、AIS、CIN3）/要精検者数×100

<各指標の許容値・目標値>

精検受診率・・・【基準値】90％以上

要精検率・・・【基準値】2.5％以下

がん発見率・・・【基準値】0.15％以上

陽性反応適中度・・・【基準値】5.9％以上